

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		きららシステム西冠				公表日		令和8年 3月 1日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。				7	
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		7		定員に対する配置基準は満たしている	支援に手厚さを要する児童が複数在籍している時間帯の対応			
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		6	1	スケジュール表やホワイトボードを活用し、子どもが見通しを持って行動しやすいよう配慮している				
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		5	2	子どもが落ち着いて過ごせるよう、好きな場所や安心できるスペースの把握を職員間で共有している				
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		7		興味関心が向くような環境での活動や、自信がなく見られたくない状況時は個別で活動をするなど様子を伺いながら対応をしている				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		5	2		活動の振り返りが十分に行われず、次の計画に生かされにくいことがある		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		7		回収後は全職員で内容を共有し、良かった点・改善点を話し合い改善に繋げている	職員の意識改善につなげていくことに時間がかかっている		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		7		毎月の会議にて、日々の活動時に感じた意見を報告する機会を設け改善策を話し合い共有している	非常勤には議事録を確認してもらいながら質疑応答の時間を設けているが会議時に参加して頂けるように改善していきたい		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6	1	巡回支援相談等の機会があれば外部の方に入ってもらっている			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		7		eラーニング研修を導入し全体研修以外に自主的に学べる環境を提供している	進んで学ぼうとする職員とそうでない職員の差がある		
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		7		ホームページにて公開している			
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。		5	2	計画作成にあたっては、複数の職員でケース会議を行い、客観的な視点で支援方針を検討している			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		6	1	日々の支援記録や職員間の申し送りを通じて、子どもの変化や課題を継続的に共有し、計画の見直しに活用している			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。		5	2	支援開始前のミーティングで、当日の支援のねらいや子どもの目標に沿った対応を確認してから活動に入っている			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		5	2	日々の支援を通して見られる子どもの行動・反応を行動観察として蓄積し、職員間で共有している			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。		5	2		支援方針の共有はあるものの、個々の職員の理解度や解釈にばらつきがあり、一貫性のある支援につながらないことがある		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		5	2	子どもの興味や発達段階、支援目標を踏まえて検討している	「行かされている」子ども達への「行きたい」と思える取り組みは課題		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。		5	2	「子どもの反応が良かった活動はどう変化させるか」を確認し合っている			

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		職員間で「この子は今日は個別対応が必要か」「集団活動にどこまで関わるか」を日々共有・判断しながら、柔軟に支援を調整している	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		支援開始前に毎日短時間のミーティングを実施し、当日の活動内容・子ども一人ひとりの配慮点・職員の役割を確認している	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		毎日、打合せと振り返りを行い情報共有する時間を確保している	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		その日の内に記録を行い、振り返りの時間を確保し情報共有の機会を設定している	背景や見えていない気持ちを記録することが難しい場合のフォローが必要
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			子どもの細かな変化や保護者の意向拾いきれていないことがある
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5	2		活動では子どもの特性に合った組み合わせや支援の深まりに課題が残る
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		選択肢のなかから決めてもらうところから始めステップアップできるように工夫している	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		直接支援にて子どもの状況をよく理解した職員が参加するように取り組んでいる	状況によっては中立的な立場で参加するほうが望ましい場合もあり、参加してみて把握できる場合もある
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		相談支援員、ソーシャルスキルワーカーとの関係を積み重ね、連携できるように整えている	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		保護者の同意があれば学校行事の様子を見学する機会を設けている	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7		保護者からも、就学前にどのような支援を受けていたか、どのような環境で落ち着いていたかなどの聞き取りを丁寧に行うよう意識している	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7		就労移行支援会議に参加、事業所での様子などの情報共有を行っている	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7		研修を受けられる機会があれば積極的に参加するよう取り組んでいる	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	5		近所の公園で関わる程度になっている
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	4	参加できる研修や会議には参加するようにしている	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	2		十分に出来ている保護者とそうでない保護者との差がある点の改善は必要
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7		ペアレント・トレーニングについての知識を講師を招いて学ぶ機会を設けた	学びを今後の開催につなげていけるように取り組んでいく
関係機関や保護者との連携	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			契約時にまとめて説明するため、情報量が多く、内容の一部が保護者に十分に伝わりきっていない場合がある
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			保護者の意向を聞き、本人の気持ちや希望を確認するが言葉にすることが難しい場面がある為、職員の主観で計画を立ててしまっていることもある
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		理解しやすいよう書き表すことを心がけている	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		保護者の不安や悩みに気づいた際には相談できる関係づくりを意識している	十分に話を聞ききれず、保護者の不安や悩みを深く受け止められない場合がある

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	7		保護者同士が交流できる場の提供を毎年行っている。夏祭りイベントでは、利用者だけでなく保護者、兄弟姉妹が参加できるように企画している	開催の周知を行っていても確認してもらえない場合がある
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			苦情対応体制は整備しているものの、実際に保護者やこどもが「安心して伝えられる」雰囲気づくりがまだ不十分な場面がある
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	1		発行が不定期になってしまい、うまく発信出来ていない面がある
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	1	個人情報(児童の氏名・住所・記録など)は、施設可能な保管庫で管理し、デジタルデータはパスワード付きの端末に限定して保管している	利便性の優先をしてしまう点の改善策を検討している
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		表情や動作からの反応を丁寧に読み取り、本人の発信を大切にしながら、安心して意思を伝えられる関係づくりに努めている	保護者への説明が一方向的になりやすく、丁寧な聞き取りや相互理解が不足することがある
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	2		継続的・日常的な関係づくりまでは至っていない
非常時等の	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	1		訓練は実施しているが、平常時の共有や確認機会が少なく、実際の緊急時にどこまで動けるか不安が残る
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			BCPは策定済みだが、職員全体への共有や内容の理解がまだ不十分
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		てんかんなど急変の可能性がある児童については、発作時の対応手順を事前に保護者と確認し、対応体制を整えている	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	2	調理をする場合は事前に連絡をアレルギー野有無を確認している	保護者からの聞き取り対応になっている
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	1	実際に行い改善策が見つかった時には職員と話し合いをし安全に支援できるように取り組んでいる	